

自治体文化施策がめざす、 これからの文化芸術と 地域社会の関係性 —堺市文化振興財団 「こども食堂における芸術家派遣事業」 実践事例

様々な分野で活躍する本学卒業生のお話、伺ってみませんか？

今年度初の若手交流会のご案内です。ぜひ、奮ってご参加ください。

【開催概要】

〈開催日〉令和8年1月17日午前10時から午前12時まで

〈開催場所〉大阪大学中之島センター セミナー室6E

〈対象者〉青雲会の正会員・準会員で、おおむね50歳まで

〈申込方法〉右のQRコードから、お申し込みください。

【講師概要】 常盤 成紀 氏（青雲会正会員 60期）

〈講師略歴〉

2016年～2019年 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程 単位取得退学

2018年～2021年 京都市役所/地域おこし協力隊

2015年～現在 アミーキティア管弦楽団 主宰

2021年～現在 公益財団法人堺市文化振興財団 事業係長

2024年～現在 大阪公立大学都市科学・防災研究センター 客員研究員

2025年～現在 NPO法人CASK 理事

〈講師からのメッセージ〉

2017年に文化芸術基本法が改正施行されて以降、文化芸術が有する社会包摂的な機能が着目され、文化芸術に対して、教育、福祉、医療等の様々な領域と連携した社会的課題の解決が期待されるようになりました。この動向が後押しする形で、社会における文化芸術の役割や期待が拡張される中で、国や各自治体の文化施策が支援する事業の方向性も多様化してきました。もちろん芸術家たちには変わらずそれぞれ固有の芸術的関心や表現欲求がある中で、これからの文化芸術と地域社会の関係性はどうあるよりよいのか。今回は堺市文化振興財団が5年間取り組んできた「こども食堂における芸術家派遣事業」の実践事例を紹介しながら考察したいと思います。

日頃、文化芸術とあまり縁がない、敷居が高くて親しみがないと思う方にとっても身近な話になると思います。皆さんのお越しをお待ちしております。よろしくお願ひいたします。

